

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2293100026		
法人名	(株)オアシス		
事業所名	グループホームオアシス中之郷		
所在地	静岡県富士市中之郷3152-1		
自己評価作成日	平成28年3月25日	評価結果市町村受理日	平成27年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigekensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2293100026-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年4月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念である、家庭的な雰囲気作り、ひとりひとりの生きがい、個人としての尊厳を大切にしています。洗濯物たたみや野菜の皮むき、テーブル拭き等、役割を持っていただく事で、ここが自分の居場所だと安心して暮らしていただき、生きがいを見つけ、それを大切にしています。毎日の散歩は欠かさず行い、季節を感じる事、また体力維持に繋がっています。地域の方との交流の機会を多く持ち、月4回程、近所の会社系列のデイサービスのイベントに参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は毎日の散歩で近所の神社の階段の登り降りをし、イベント会場のデイサービスセンターの帰り道も上り坂であるが元気に出かけて行く。そのため足腰が丈夫で、免疫力ができ、高齢にもかかわらず元気に過ごしている。散歩中は地域の人が声をかけてくれ暖かく見守ってくれる関係性ができている。利用者はぬかどこをかきまじり食器拭き等、自分の役割を持ち、ゆったりと自分のペースで過ごしている。会社の方針でもあるが、グループホームの良い所を考え実現し、アクティビティと笑いで毎日にメリハリがつくようにしている。理念やオアシス十か条、またコラムの感想文を書くことなどにより職員教育に力を入れている。運営推進会議には地区以外の民生委員が参加してくれ、区長の尽力もあり地域の協力が得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気作りと尊厳を支えるケアをしています。職員研修で入職時に説明しています。月1回のホーム会議内での研修で話し合いをしています。	理念や「オアシス十カ条」を事業所内に掲示し、朝礼やホーム会議で読み上げ理念が守られているか話し合っている。リーダー会議ではスピーチロックや認知症について等テーマを探し全体会議につなげて実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、防災訓練に参加しています。夏祭りでは毎年チラシ寿司を作り売上金を町内会に寄付しています。	区長が老人会やカラオケの情報を届けてくれ、利用者は地元の盆踊りにゆかたを着て出掛けている。散歩中に近くの人と一緒に散歩したり、名前を呼んでくれる等の関係がある。またおすそわけを頂くこともある。看護学生の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントに招待したり、いつでもホームに遊びにきてもらえる様に受け入れをして、ご利用者を理解していただく様にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考にし、サービスに活かす様にしています。また多くの方に参加して頂く様、カラーセラピー講座を開いたり季節のお菓子等でもてなす事もあります。	市と包括職員が交互に出席し、利用者、家族、民生委員の参加で2カ月に1度開催している。利用者状況等報告の後、出席者から意見があり、サービスの向上に活かしている。議事録は詳しく作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者は2か月ごとの運営推進会議に参加していただき、意見をもらっています。その他にも相談をさせてもらう事もあります。	法令改正等の疑問点があれば、電話で聞いている。生活保護者を受け入れているので、質問したり報告している。インフルエンザの流行や、台風の水害について等のお知らせがメールが入るなど、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開放し、地域の方も自由に出入りできる様にしています。また内部研修で拘束や権利擁護について勉強し、拘束しないケアに取り組んでいます。	新人職員には身体拘束の説明をし、個別の実践で指導している。抑制委員を配置し、職員の都合でなく利用者の目線で援助するように気を付け、スピーチロックも意識するよう勉強会を行っている。気になる言葉かけの場合は、職員や管理者が注意している。	

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で虐待防止についての話し合いもしており、身体的には勿論のこと特にスピーチロックは徹底し何度も勉強会を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議内で権利擁護についての研修を行い全員が参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望時に必要な説明を行い、本人又はご家族が十分に納得した上で契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見を参考にしたり、面会時やその他いつでもご家族が話やすい様な雰囲気を作っています。請求時にご家族への手紙と一緒に要望等を書いていただくハガキを同封する事もあります。	家族からは運営推進会議や来所時に意見や苦情を聞いている。出た意見は会議にかけ対策を話し合っている。「家族も参加できる遠足」や「家庭に居た時の部屋の温度やお風呂の入り方等」の意見が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は全員委員会活動しておりホーム会議で意見を出して運営に反映させる様に努めている。	日頃から意見を言い易い環境作りが心がけ、委員会活動やミーティングで意見を聞く機会がある。暴言を吐く利用者に「小ノートを渡しては？」の提案があり、意見を反映している。今は利用者全員に小ノートを活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホーム会議・リーダー会議に参加し、職員の意見や要望を聞いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修やホーム会議内で研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会があり年1回は他施設の職員、ご利用者と交流の機会をもうけています。今年は10名程招待し食事会やゲームで楽しい時間を過ごしました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とご家族と事前に面談し、施設訪問をしていただき、不安を解消していただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、ご本人とご家族の要望を聴き可能な限り安心していただける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の困っている事や要望を聴き、何を必要としているかを見極めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや野菜の皮むき等、役割りがある事や誕生会を皆様で祝い家庭的な関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントに招待したり、いつでも協力していただき入居してからも親子関係が円滑にたもてる様にサポートします。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも自由にできる環境にしたいです。馴染みの場所に外出したい時は職員又はご家族が付き添います。	行きつけの理美容院や墓参りに家族対応で出かけている。好みの化粧品や洗面・入浴用品等家族と買い物に行ったり、持参してもらう等関係継続している。昔の友人や近所の人に会いにイベントに参加したり、正月には多くの訪問者が来る等馴染みの関係を継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごす時の席の配置に配慮したり、ひとりひとりの得意分野を活かせるレクリエーションを取り入れています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は面会に行ったり、ご利用者は絵や手紙を送ったりしています。他施設へ移られた方へはイベントに招待しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別担当者がおり、ご本人やご家族の意向に合わせた支援を心がけています。	フェイスシートは全職員が見られるようにしている。日々の会話の中から把握できるが、生活歴をチェックし、新たに始めた入居者が個別に気持ちを綴る「小ノート」から把握することができ、カンファレンスで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネやご家族から、それまでの生活歴等の情報をもらっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別担当者が主になり心身状態の把握に努めています。月2回の往診時の記録は全員が把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回全員のカンファレンスを行い、心身の変化に合わせたケアを検討しています。又ご家族の意見は運営推進会議や面会時にお聞きし介護計画を作成しています。	本人・家族・医師・看護師・キーパーソン等の意見を聞き、毎月、担当職員中心に全員のモニタリングを行い、半年に1度また状態が変化した時、計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアは介護日誌や個人介護記録に記入し特変がある時は別に特変記録に記入し申し送りを毎日行っています。		

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	イベントを多く企画しています。月4回程系列のデイサービスのイベントに参加し、外出や外食の機会も多くしています。散歩には毎日出掛け地域交流を図っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流を大切にしています。町内の高齢者ふれあい会・夏祭り・防災訓練への参加をし、お互い協力しながら安全に暮らしていける様にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医による往診があります。家族対応で受診する際、日ごろの状態を医師に説明できる様にご家族と情報交換をしています。	入居時往診してくれる協力医がいることを説明し納得の上協力医に変更している。往診の結果は家族に報告し、他科受診は家族対応でお願いし情報を交換していて、薬を持参してくれる。協力医へは24時間オンコール可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回以上来訪し、ご利用者全員と面会しています。職員と日常的に情報交換を行い相談・助言をしてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と情報を共有しています。入院中管理者、職員は面会し、退院後の方向性についての話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、又は状態変化で必要となった時に重度化や看取りに関しての方針説明しています。家族の意向を優先し、ご家族・医師・看護師・介護職と連携し取り組んでいます。	入居時に事業所の方針を説明し本人、家族から同意をもらっている。また、重度化した場合に医師から家族に説明し対応を決めている。看取り後には、ミーティングを行い、対応についての反省と職員のケアをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに速やかな対応ができる様にしています。職員全員が救急蘇生法の研修を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練に参加し協力体制はとれています。又、自施設の2階は土砂崩れ、津波等の災害時の避難場所になっています。	12月に地区の地震想定防災訓練に利用者と職員が参加している。施設の2階に待機する等の決め事は防災委員会中心に話し合い、今後、事業所の訓練を夜間想定で行う予定である。	今後事業所独自の防災訓練を予定しているため早期実現する事を期待する。また消防署の立ち会いで訓練や地域住民との協力体制の構築も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに合わせたケアを心掛けています。生活歴や趣味嗜好を把握し個別ケアをしています。	毎日のアクティビティで、その人の得手・不得手があり、帰宅願望者や不穏者への声掛けは、プラス思考にしている。利用者に積極的に役割を持ってもらっていて、希望の多いお手伝いは分担票を作成している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者ペースで表現できる様に心掛けています。傾聴し思いを引き出す努力をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアをしています。生活歴を把握しご本人の希望を優先する様に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服等できる方は、ご自分で選んでいただいています。化粧品や洗面用品、入浴用品等は好み物を使用していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に皮むき等の手伝いをさせていただき、調理を楽しんでいただいています。又ホットプレートを使用した食事やおやつ作りをメニューに取り入れ役割り分担し調理を行う機会を作っています。	入居者と職員は職員の手作りの同じものを食べていて、食材の話題でにぎやかな食卓になっている。来所者や近所から差し入れがある。ペースも個別にし、ゆったりと食べている。各自の役割で食器拭きを積極的に行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は全員毎食記録しています。十分に水分摂取できない方のみ記録しています。食事形態やトロミ剤の使用等は話し合い検討しています。		

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声掛けし口腔ケアを行っています。ご自分でできない部分は職員が介助しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利尿剤の服用や排泄チェック表でひとりひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導しています。	心臓病で利尿剤を服用している人は、まめに誘導するなど個別ケアをしている。現在利用者は年齢と介護度は高いがオムツの1人以上布パンツにパットで対応している。夜間はリハビリパンツに大きめのパットにするなど体調に合わせて工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩や体操レクで身体を動かしています。こまめな水分摂取と毎日10時のおやつにヨーグルトに果物を入れて食べていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は原則ですが、その日の体調やご本人の希望や拒否により、臨機応変に対応しています。それ以外に汚染時にはシャワー浴や清拭を施行しています。	原則毎日午後3人ずつ入浴を支援し、身体の状態により1階2階のお風呂を使い分けている。希望があれば夜でも朝でも入浴可能である。菖蒲、ゆず、茶ガラ等季節湯を楽しめるよう配慮している。同性介助等羞恥心に気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後等、休息が必要な方、又横になりたい方はリビングのベットや居室で休んでいただいています。就寝時間も決めておらず、休むまで自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を用いて、ひとりひとりの服用している薬の用法・量・薬効・注意事項を確認しています。服用時は職員2名で声出し確認し誤薬のない様に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ・食器洗い・糠床・テーブル拭き・新聞配達等々の役割り分担をしています。その他おやつ作りレクや職員手作りのゲームや読み聞かせをしています。		

静岡県(グループホーム オアシス中之郷 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩に加え、おやつの買い出しや誕生日に外出し、ご本人の好きな物を食べて頂く事をしています。春の花見や秋の遠足は恒例行事でご家族にも参加していただいています。	散歩が日課になっていて、ボランティアのイベントが多く、近くにある同系列のデイサービスまで歩いて行っている。季節ごと車でおやつを持って出かけ、誕生日には本人の希望する所に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は殆どのご利用者がご家族管理です。数名の方がお金を持っていますが、持っていないと不安という理由からです。必要な時は職員と一緒に買い物に出掛けます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由にやり取りしています。年賀はがき・暑中見舞いはレクリエーションで作成して、全員がご家族等に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関と玄関入って直ぐに見えるスペースには常に職員手作り鉢植えを置き、季節を感じてもらおう工夫をしています。浴室・トイレは毎日掃除し清潔を心掛けています。	テレビの音は適切に管理され、食事中は消している。ダイニングの横にテーブルがあり、作業やイベントの準備、ミニキッチンなどに使用できる。職員が趣味で季節のお花を飾ってくれている。五月節句飾りや利用者の作品が季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに畳ベットを置き、どなたでも自由に座ったり横になる事ができます。テーブルは2つ置き椅子を窓際に置き日向ぼっこや外を眺める事ができる様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた自宅で使用していた物を持ってきていただく様にしています。レクリエーションで作った作品を飾る事もありますが、ご本人が希望する方のみ飾らせていただきます。	各部屋、日差しと風が入り、カーテンと洗面台以外自宅から今まで使っていた物を持ち込み、家と変わらない居室になっている。転倒防止のため敷物を用意してあったり、家族用の椅子を自宅から持って来ている入居者がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望する方の居室・浴室・トイレにはプレートをつけわかりやすくしています。共有スペースは転倒防止や自由に動ける様に余計な物は置きません。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2293100026		
法人名	(株)オアシス		
事業所名	グループホームオアシス中之郷		
所在地	静岡県富士市中之郷3152-1		
自己評価作成日	平成28年3月25日	評価結果市町村受理日	平成27年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社の理念である、家庭的な雰囲気作り、ひとりひとりの生きがい、個人としての尊厳を大切にしています。洗濯物たたみや野菜の皮むき、テーブル拭き等、役割りを持っていただく事で、ここが自分の居場所だと安心して暮らしていただき、生きがいを見つけて、それを大切にしています。毎日の散歩は欠かさず行い、季節を感じる事、また体力維持に繋げています。地域の方との交流の機会を多く持ち、月4回程、近所の会社系列のデイサービスのイベント参加にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年4月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気作りと尊厳を支えるケアをします。職員研修で入職時に説明しています。月1回のホーム会議内で話し合いをしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、防災訓練に参加しています。夏祭りでは毎年チラシ寿司を作り、売上金を町内会に寄付しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントに招待したり、いつでもホームに出入りできる様に受け入れをして、ご利用者を理解していただく様にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考にし、サービスに活かす様にしています。また多くの方に参加していただく様に、カラーセラピー講座を開いたり、季節のお菓子でもてなす事もあります。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者は2か月ごとの運営推進会議に参加していただき、意見をもらっています。その他にも相談させてもらう事もあります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開放し、地域の方も自由に出入りできる様にしています。また内部研修で拘束や権利擁護について勉強会をし、拘束しないケアに取り組んでいます。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で虐待防止についての話し合いもしており、身体的には勿論のこと、特にスピーチロックは徹底し何度も勉強会を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議で権利擁護について勉強会を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望時に必要な説明を行い、ご本人又はご家族が十分に納得した上で契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見を参考にしたり、面会時や、その他いつでもご家族が話やすい雰囲気を作っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は全員委員会活動しており、ホーム会議で意見を出して運営に反映させる様に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、ホーム会議・リーダー会議に参加し、職員の意見や要望を聞いています。ご利用者と関わる事が多くあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修やホーム内部研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会があり、年1回は他施設の職員、ご利用者と交流の機会をもうけています。今年は10名程招待し食事会やゲームで楽しい時間を過ごしました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とご家族と事前に面談し、施設訪問していただき、不安を解消していただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時、ご本人とご家族の要望を聴き可能な限り安心していただける様に努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が困っている事や要望を聴き、何を必要としているか見極めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや野菜の皮むき等、役割りがある事や誕生会を皆様で祝い家族的な関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントに招待したり、いつでも協力していただき、入居してからも親子関係・家族関係が円滑にたもてる様にサポートします。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも自由にできる環境にしています。馴染みの場所に外出したい時は、職員又はご家族が付き添います。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごす時、席の配置に配慮したり、ひとりひとりの得意分野を活かせるレクリエーションを取り入れています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は面会に行ったり、ご利用者は絵や手紙を送ったりしています。他施設へ移られた方へはイベントに招待したりします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別担当があり、ご本人とご家族の意向に合わせた支援を心掛けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネやご家族から、それまでの生活歴の情報をもらっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別担当が主になり、心身状態の把握に努めています。月2回の往診時の記録は全員が把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回全員のカンファレンスを行い、心身の変化に合わせたケアを検討しています。又ご家族の意見は運営推進会議や面会時にお聞きし、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアは介護日誌や個人介護記録に記録し、特変がある時は別に特変記録に記録し申し送りを毎日行っています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	イベントを多く企画しています。月4回程度会社系列のデイサービスにイベントに参加し、外出や外食の機会も多くしています。散歩には毎日出掛け地域交流を図っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流を大切にしています。町内の高齢者ふれあい会・夏祭り・防災訓練へ参加し、地域の方と協力しながら安全に暮らしていける様にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医による往診があります。家族対応で受診する際、日頃の状態を医師に説明できるように、ご家族と情報交換しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回以上来訪し、ご利用者全員と面会しています。職員と日常的に情報交換をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と情報を共有しています。入院中は管理者、職員は面会し、退院後の方向性についての話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、又は状態変化で必要となった時に、重度化や看取りに関しての方針説明しています。ご家族の意向を優先し、医師・看護師・介護職と連携し取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに速やかな対応ができる様にしています。職員全員が救急蘇生の研修を受けています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練に参加し協力体制はとれています。又、自施設の2階は土砂崩れ・津波等の災害時の避難場所になっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに合わせたケアを心掛けています。生活歴や趣味嗜好を把握し個別ケアをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者ペースで表現できる様に心掛けています。傾聴し思いを引き出す努力をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアをしています。生活歴を把握し、ご本人の希望を優先するよ様に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服等、できる方はご自分で選んでいただいています。化粧品や洗面用品、入浴用品等は好みの物を使用していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に皮むき等の手伝いをしていただき、調理を楽しんでいただいています。又ホットプレートを使用した食事やおやつ作りをメニューに取り入れ役割り分担し調理を行う機会を作っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は全員毎食記録しています。十分に水分摂取出来ない方のみ記録しています。食事形態やトロミ剤の使用等は話し合い検討しています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が声掛けし口腔ケアを行っています。ご自分でできない部分は職員が介助しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利尿剤の服用や排泄チェック表でひとりひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩や体操レクで身体を動かしています。こまめな水分摂取と毎日10時のおやつにヨーグルトに果物を入れて食べていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は原則ですが、その日の体調やご本人の希望や拒否により、臨機応変に対応しています。しれ以外に汚染時にはシャワー浴や清拭を施行しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後等、休息が必要な方、又横になりたい方はリビングのベットや居室で休んでいただいています。就寝時間は決めておらず、休むまで自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を用いて、ひとりひとりの服用している薬の用法・量・薬効・注意事項を確認しています。服用時は職員2名で声出し確認し誤薬のない様に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや野菜の皮むき・食器洗い・糠床・テーブル拭き・新聞配達等々の役割り分担をしています。その他、おやつ作りやゲーム・読み聞かせをしています。		

静岡県(グループホームオアシス中之郷 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩に加え、おやつの買い出しや誕生日に外出し、ご本人の好物を召し上がっていただいています。春に花見や秋の遠足は恒例行事でご家族も参加してくださいませ。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どのご利用者は家族管理です。数名の方がお金を持っていますが、持っていないと不安という理由からです。必要な時は職員と一緒に買い物に出掛けませ。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由にやり取りしています。年賀状・暑中見舞いはレクレーションで作成して、全員がご家族等に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関と玄関を入れて直ぐに見えるスペースには常に職員手作りの鉢植えを置き、季節を感じてもらう工夫をしています。浴室・トイレは毎日清掃し清潔を心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに畳ベットを置き、どなたでも自由に座ったり横になる事ができます。テーブルは2つ置き、椅子を窓際に置き、日向ぼっこや外を眺める事ができる様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた自宅で使用していた物を持ってきていただく様にしています。レクレーションで作った作品を飾る事もありますが、ご本人が希望する方のみ飾らせていただきます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望する方の居室・浴室・トイレにはプレートを付けてわかりやすくしています。共有スペースは転倒防止や自由に動ける様に余計なものは置きません。		